

ニュースリリース
2026年2月10日

ビレッジハウス・マネジメント株式会社

ビレッジハウス、官民学連携の防災共創プロジェクトを通じ安心安全な暮らしを支援 1月22日、広島県で留学生111人と防災を学ぶ実践イベントを開催

ビレッジハウス・マネジメント株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：岩元 龍彦、以下ビレッジハウス）は、2026年1月22日（木）に広島県三原市の「三原国際外語学院」と「ビレッジハウス三原筆影」で、防災イベントを行いました。

本イベントは、ビレッジハウスが三原市の掲げる「びんご圏域多文化共生推進ビジョン」に賛同し、官民学が連携して地域防災力の向上と多文化共生の実現を目指す防災共創プロジェクトの一環として実施したもので、参加者が日本の災害特性や日頃の備えの重要性を学び、災害時に助け合う関係づくりのきっかけとすることを目的としています。

参加した留学生 111 人のうち 80 人は「ビレッジハウス三原筆影」に入居しています。



消防士の指導を受けて心肺蘇生法の体験をする留学生（左）、
「ビレッジハウス三原筆影」で実施した訓練用消火器を使った初期消火体験（右）

当日は、三原市の出前講座を活用し、地域の防災士と三原消防署の協力のもと実技を中心に実践的な防災プログラムを行いました。三原市防災士ネットワークの防災士・岡本正治氏による講義では、いざという時のために備えておきたい防災グッズや非常食を説明しました。演習では4グループに分かれ、訓練用消火器による初期消火体験、心臓マッサージやAEDを用いた心肺蘇生法の体験、避難所で役立つ段ボールベッドの制作、VRゴーグルによる災害体験を通して、防災意識を高めるきっかけとなりました。日本語学習中の留学生であることを踏まえ、講義および演習は、理解しやすいやさしい日本語で実施しました。



熱心に耳を傾ける留学生（左上）、命を守る行動を呼び掛ける防災士・岡本氏（右上）
避難所で役立つ段ボールベッドの制作（左下）、VRゴーグルでリアルな災害体験をする留学生（右下）

参加した留学生からは、学びを生かしていきたいという意気込みが伝わってきました。

「出身地のシンガポールは地震や津波の心配も少ないので、今日はじめて防災グッズや非常食など備えの大切さと自分の命を守る重要性を学びました。AED 演習や段ボールベッド作りも体験したので、いざという時には周りの人を助けたいと思いました」（20代・女性）

「AED を初めて触り、とても勉強になりました。今後何を備えればよいのかを学んだので安心できて自信も持てました。地震へ気持ちの準備もしておきたいです」（20代・男性）

三原国際外語学院の本庄校長からは、「講義や演習プログラムを通して分かりやすく丁寧にご指導いただき、留学生たちも防災に対する意識を高めることができました」と今回の取り組みを高く評価いただきました。

ビレッジハウスでは、日本で暮らす外国人入居者に安心安全に過ごしてほしいとの思いから、日本特有の災害情報を提供する防災イベントを2022年から実施しており、兵庫県、愛知県、滋賀県、栃木県、山形県、富山県に続き、今回が8回目の開催です。学校法人とのプロジェクトおよび留学生を対象にしたイベントは初開催、また広島県での開催も初めてです。

今後は、これまでの取り組みで得た知見を生かし、防災に加えて、自治体ごとに異なるゴミ出しのルールなど、日本での生活に必要な情報を学べる機会を、全国の管理物件へと広げていく予定です。外国人入居者の皆さまが地域社会の一員として安心して暮らせる環境づくりに、引き続き取り組んでまいります。

ビレッジハウスは、誰もが生活の質を保ち、手頃な家賃で安心して長く住み続けられるアフターダブル住宅を提供している民間会社として、よりよい日本の住宅環境を築くと共に、住まいを探す全ての人に寄り添い、入居者の安心で安全な暮らしをサポートしています。外国人の住まい探しから入居後のサポートまで行う「インターナショナルサポートチーム」を設置し、現在、ベトナム語に加え、ポルトガル語・英語・ネパール語・インドネシア語・ミャンマー語でのサービス対応を行っています。母国の文化や背景を理解した社員がサポートすることで、より丁寧に、入居者一人ひとりに寄り添った対応を実現しています。

■ビレッジハウス・三原市・地域の学校法人が実現する防災共創プロジェクト

「ビレッジハウス防災イベント@広島県三原市」開催概要

主催：	ビレッジハウス・マネジメント株式会社
日時：	2026年1月22日（木） 13:10～15:00
実施場所：	三原国際外語学院・大講義室（広島県三原市宮沖 5-8-15）および、 ビレッジハウス三原筆影・敷地内（広島県三原市宮沖 5-8-1）
参加者：	三原国際外語学院に在籍する留学生 111人
物件：	「ビレッジハウス三原筆影」 三原国際外語学院の全校生徒111人のうち、80人が入居。国籍はネパール、 ミャンマー、スリランカなど ※ 2025年11月末日時点
内容：	① 講義 備えておきたい防災グッズ・非常食の紹介 ② 演習（参加者は下記コンテンツ2つ以上を体験） ・訓練用消火器を使った初期消火体験 ・心臓マッサージやAEDを使った心肺蘇生法の体験 ・避難所で役立つ段ボールベッドの制作 ・災害をリアルに体感できるVR体験
主催：	ビレッジハウス・マネジメント株式会社
協力：	三原国際外語学院、三原消防署、三原市防災士ネットワーク

ビレッジハウス・マネジメント株式会社について

ビレッジハウス・マネジメント株式会社は、全国 47 都道府県で 1,064 物件（2,960 棟、108,409 戸）※1 の賃貸住宅「ビレッジハウス」を運営、管理する国内最大級の賃貸住宅サービス会社です。独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が雇用促進住宅を民間に売却した際に、フォートレス・インベストメント・グループが一括取得し「ビレッジハウス」へリブランディング、リノベーションして賃貸住宅として提供を開始しました。住宅を建て替えるのではなく、既存の建物を有効活用、長く使用することで低賃料を実現し、民間会社で唯一、大規模にアフォーダブル住宅※2 を提供しています。簡単な事務手続きで、あらゆる世代の単身者、ファミリーの他、外国人や法人の社宅としてもご利用いただけるよう、今後も継続的な供給を維持しながら、よりよい日本の住宅環境を築くことを目指します。

※1 2026 年 1 月 1 日時点の戸数

※2 誰もが生活の質を保ち、手頃な家賃で安心して長く住み続けられる住宅

2026 年 1 月 1 日現在、1,099 名の従業員を擁し、東京本社に加え全国 7 支社を展開、入居にかかる募集から受付、審査、物件管理まで自社一貫のサポート体制を整え、法人向けサービスの拡充にも取り組んでいます。また、多言語対応の強化や 571 名の住宅担当者による物件の巡回で、入居後も安心してお住まいいただけるよう住宅環境の整備も行っています。

■ビレッジハウス・マネジメント株式会社

<https://www.villagehouse.jp/>

本 社：東京都港区虎ノ門 4-3-13 ヒューリック神谷町ビル 4 階

設 立：2016 年 12 月 21 日

本件に関するお問い合わせ

■ビレッジハウス・マネジメント株式会社 事業戦略本部 広報担当

E-mail：vhm-PR@villagehouse.jp